

「昭和100年／戦後80年

今、歴史から何を学ぶか」

昭和20年8月15日、終戦の日を八雲町で迎えたノンフィクション作家保阪正康氏をお招きして講演会を開催します。

八雲での思い出を交えながら、これからの私たちが歴史から何を学び、将来につなげていったらよいのかを、お話ししていただきます。

多くの方のご参加をお待ちしています。

日時	令和7年9月7日(日) 14:00~16:00 (受付 13:30~)
会場	はぴあ八雲 コミセンホール
主催	八雲町教育委員会
主管	生涯学習フェスティバル実行委員会
申込み 問合せ	8月29日(金)までに電話または二次元コードでお申し込み 下さい 八雲町教育委員会社会教育課(八雲町公民館) TEL 0137-63-3131 

ほ さ か ま さ や す

講師: 保 阪 正 康 氏



〈講師紹介〉

昭和14年(1939年)、北海道札幌市生まれ。昭和20年(1945年)終戦を八雲町で迎える。

同志社大学文学部卒業後、出版社勤務を経て『死なう団事件』(1972年)で作家デビュー。主に近代史の事件、事象、人物の評伝、医学・医療などをテーマにした作品を発表している。特に関係者の証言を延べ4000人から求め、実証主義的手法での作品が多い。国際日本文化センターの共同研究員、立教大学社会学部の兼任講師なども務めた。

昭和史研究で菊池寛賞、『ナショナリズムの昭和』(和辻哲郎賞)、『石橋湛山の65日』(第1回石橋湛山和平賞)、他に北海道新聞文化賞、NHK放送文化賞なども受賞している。

主な作品は『東條英機と天皇の時代』『あの戦争は何だったのか』『吉田茂』ほか。